

組織目標評価報告書（平成29年度）

部局名：

附属図書館

部局長名：

今津 勝紀

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	
①-1 目標	①-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
<p>附属図書館は、語学学修やICT機器の活用をより一層推進するための環境整備を進め、学修機能強化を図る。また、アカデミックライティングに対するサポート体制を充実させる。 さらにグローバル化に対応して施設環境も整備していく。</p>	<p>附属図書館は、電子書籍やICT機器等の各種マニュアルを作成し、学習環境機能の強化を図った。また、アカデミックライティングをサポートするためのセミナーを計10回開催し、昨年度を大幅に上回る87名の参加があった。 3学期から開始された本学アカデミックライティング授業用の教科書『大学生のための伝わる情報発信術』を8月に刊行し、さらにその内容を元にしたセミナーを1月末に開催、大学院生を含んだ学生27名が参加するなどアカデミックライティングに対するサポート体制を充実させた。 館内サインについて図書館内の各コーナーや複写機器の案内を英語化した他、現在の日・英語に中国語を加えた多言語表記にしてグローバル化に対応した施設環境整備を行った。</p>
①-2 全学の組織目標との関連	①-2 大学全体への貢献
<p>教育の「質の向上」および学びの強化のために図書館における自主学修環境の整備を図る。</p>	<p>施設環境設備としてはグローバル化への対応を順次進めている。また、レポートや論文を書く力の向上は学生の学修にとって非常に重要と考え、アカデミックライティング向上のために授業用教科書作成や各種セミナーを開き、自主学修の強化をサポートしている。</p>
①-3 目標とする(重要視する)客観的指標	①-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況
附属図書館入館者数	平成29年度附属図書館入館者数：767,971人
③社会貢献(診療を含む)領域	
③-1 目標	③-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
<p>附属図書館が持っている資料を利用した学生・市民が参加できる展示会・公開講座・セミナー等を関係機関と連携し積極的に開催すると共に「集いの場」としての附属図書館におけるギャラリー機能を強化し、学内外の交流を深める。</p>	<p>異世代・異社会交流の場とした「知好楽セミナー」を、予定より多い5回開催し、学生・教職員・市民等計148名の参加があった。館内での様々なテーマ展示(6回開催)の他、新たに県内高校図書室へ池田家文庫資料の出張展示を行うなど、積極的に開催した。8月に公開講座を1回、11月に「池田家文庫絵図展」を開催した。この絵図展については、地域への貢献が評価され、岡山市文化奨励賞を受賞した。また、学外からの外部資金を得ることで、平成30年度に貴重資料のデジタル化についてさらに推進することとなった。</p>
③-2 全学の組織目標との関連	③-2 大学全体への貢献
地域社会との連携を継続して進めて行く。	岡山市と協力し、展示会を開催することにより、毎年約2,000名が附属図書館が所蔵する地域の歴史資料に触れる場を創出している。
③-3 目標とする(重要視する)客観的指標	③-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況
公開講座・展示会の参加人数	池田家文庫絵図展入場者：2,168名 公開講座参加者：49名
④センター業務	
④-1 目標	④-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
<p>附属図書館は、本学の研究の基盤となる電子ジャーナル・データベースについて電子ジャーナル等選定WGを運用して全面的な見直しを検討・選定する。</p>	<p>第3期中期目標・計画期間の電子ジャーナル経費について基本的な方針を策定した。その方針に基づき、平成30年度の電子ジャーナルについて電子ジャーナル選定WGにて検討を重ね、ジャーナルの選定やその他研究科選定枠等を見直し、契約を履行した。</p>
④-2 全学の組織目標との関連	④-2 大学全体への貢献
「研究」大学として研究の基盤となる学術情報を提供する。	一部パッケージ契約を解消により発生した学術情報の提供数の減少に対応するため、論文単位で購入することのできる前払い型Pay per Viewの継続実施や新たなバックファイルの導入し、研究への影響を少なくした。
④-3 目標とする(重要視する)客観的指標	④-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況
電子ジャーナルの提供タイトル数	電子ジャーナルの提供数：22,244タイトル(前年比4.76倍 バックファイルを含む)
⑤管理運営領域	
⑤-1 目標	⑤-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
<p>学生の自主学修のための環境整備を積極的におこなっていく。そのための予算執行について適正に努める。 職員に積極的な研究を受講させ、法令遵守や安全衛生に対する意識向上に努める。</p>	<p>前述した館内サインの多言語化を始めとして、スペースを工夫して閲覧席を減少させることなく書架を増設して狭隘化解消に向けた取り組みをするなど図書館全体をみた予算執行を行ってきた。また、ハラスメントやセキュリティ講習会等積極的に受講するよう部内にて働きかけを行った。</p>
⑤-2 全学の組織目標との関連	⑤-2 大学全体への貢献
可能な限り職員に様々な研修を受講する機会を作り、法令遵守の徹底を図っていく。	部内ハラスメント研修では、できるだけ多くの職員が受講できるよう午前・午後2回開催し、クラウドラーニングシステムにより遠隔地の鹿田分館でも受講できるように工夫をこらした。
⑤-3 目標とする(重要視する)客観的指標	⑤-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況
ハラスメント講習会の開催	平成30年2月：部内ハラスメント研修会開催
【総括記述欄】	
<p>平成29年度は、中央図書館の入館者数も60万人を超過最高となった。しかし、人が集うことは光熱水料も含めた経費増となっていることも否めなく、施設運営の一層の効率化を検討していかなければ自主学修サポートの低下を招くことは時間の問題と考えている。また、概算要求や外部資金等を得て貴重資料をデジタル化し、さらに世界に発信していく目処も立った。これを平成30年度については着実に実施していく。 長年の懸案であるところの電子ジャーナルの経費問題については、国内大学図書館全体(コンソーシアム)と出版社の交渉でも価格上昇は止まっておらず本学にふさわしいジャーナルの提供ということを継続して見直さなければならぬと考えている。</p>	